

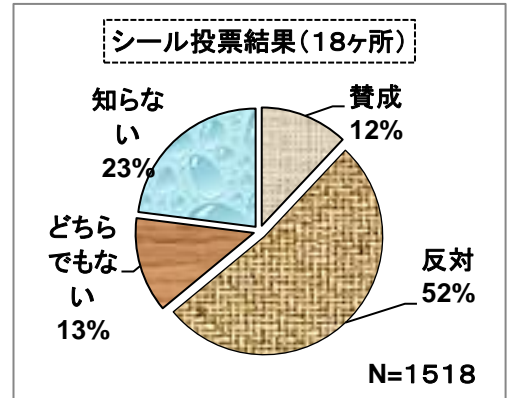
反対する市民は決して「一部少数派」ではない！！

東香里在住の資産家大東清四氏が7億円かけて建設し、枚方市に寄付するという美術館。竹内市長は独断で香里ヶ丘中央公園の「アラカシの森」を建設用地に提供した。しかし、市民の抗議運動は5ヶ月以上工事着工を阻止している。枚方市政はじまって以来の出来事だ。

市政に見られる問題点と運動の成果は、次のようになる。

★昨年3月26日、市民を無視し、本会議で可決されたこの案件～市は、本会議前に香里・香陽・五常・開成の4校区コミュニティ会長にのみ知らせ、口止めし、他の市民には一切知らせていなかった。「民主主義」には程遠い市長・議会・行政のあり様である。

「街角シール投票」が浮かび上がった『民意』と『市長・議会・行政』との隔たり（裏に説

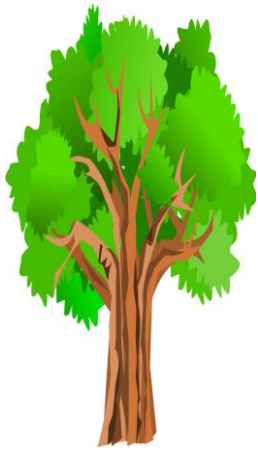


★香里団地の中核をなす中央公園の小高い丘を削り、建設が予定される美術館。敷地面積900坪の実勢価格は4～5億円といわれる。提供される土地は市民の財産。にもかかわらず、枚方市は市民の意見を十分受け止めず、寄付者の意向のみ尊重してきた。

★戦前は火薬製造の地、戦後は住民運動により平和な住宅地として生まれ変わった香里ヶ丘の地に見事に育つアラカシの森。この木々は、まだ200年以上は寿命があるといわれる大木である。近年、周辺の乱開発で緑の破壊が続く中、この森への市民の思いはひとしおである。

★美術館の維持費は、約7,000万から1億円。多額の税金投入が必要である。約1,000億円の負債(赤字)をかかえる枚方市に更なる赤字を増していいのか？子供や老人の医療費、耐震化、浸水対策等々優先課題が山積している。

★この美術館は条件付の寄付である。30年間美術館として維持できなければ、その時点での減価償却された価格を寄付者に返還しなければならない。



★香里ヶ丘は主要駅からバスでおよそ15分。交通アクセスは良いとは言えない。

★市は寄贈される80点の美術品の評価を明らかにしていない。

集まった反対署名は 16,000

☆抗議運動の中から文化が生まれた。歌「風とみどりの丘」「誰がこわすの市民の森を」、絵本「アラカシのもり」がそれである。



☆民意を重んじた健全な地方自治を求める市民の声は、次期市会議員選挙・市長選挙に向け、日々大きく鋭くなりつつある。

裏へつづく⇒